

## 2017年冬期特別号 ゼミナル通信 “鳥瞰するが如く”

### 特訓ゼミ

11月4日(土)、国分校・隼人校の各教室にて中学3年生対象の『特訓ゼミ』を行いました。

時間を午前と午後の二部に分けて、教科は数学と英語の2つに絞り、3時間ずつ取り組みました。

「解く」→「チェック・解説」→「訂正・練習」

各自黙々と類題に集中して取り組みました。解説は1対1で丁寧にそれぞれの理解を深めていきます。これをくり返すことで問題が解けるようになっていくことを実感してくれたのではないのでしょうか。

午後、少し疲れが見え始めた頃に、「チョコレート」などで脳に栄養を補給して、最後まで頑張りました。

終わった時の「初めてこんなに長く集中して勉強した。」「意外と早かったね。」という生徒たちの言葉に充実感が感じられました。

さあ、この特訓ゼミを契機にして、更に受験生としての自覚を高めていきましょう。今回の特訓で終わらなかった問題を毎日少しずつ解いて、どしどし質問をしてください。『継続は力なり!』です。



### 子どもたちの日常に関心を (ゼミブログより)

生徒たちが塾に持ってくる飲み物を見ていると、水筒を持ってくる生徒、途中でお茶やジュースを買ってくる生徒とそれぞれです。塾では飲み物を指定することはないのですが、身体にあまりよくなさそうな飲み物ばかりを持ってくる生徒もいてアドバイスをすることもあります。

最近、子どもたちの心身への影響が心配されている飲み物の話を聞きます。それが若者を中心に人気が広がる「エナジードリンク」。だれでも自動販売機やコンビニなどで手軽に購入できる清涼飲料水です。心身の異変の原因として疑われているのが、エナジードリンクに含まれる成分「カフェイン」の影響です。

そもそもカフェインは、コーヒーやお茶など多くの嗜好品に含まれています。しかし、清涼感のある炭酸飲料のエナジードリンクは、子どもの手が届きやすい飲み物なので、知らず知らずのうちに「カフェイン」を摂取していることも多いそうです。

カフェインの子どもへの影響について書かれた記事には、エナジードリンクを手取る理由として、受験やテスト前の勉強で集中力を高める、徹夜をする、部活動等の試合でパフォーマンスを向上させる、などの理由で飲む子どもたちも多いという調査結果がありました。これは、カフェインの気分を高揚させる作用に関係があるようです。記事の中の医師の話として、「子どもにとってタバコやお酒は危険だと誰もが思うでしょうが、カフェインも同じ。中毒になりかねないものなのに、あまりに知られておらず啓発もされていないのが現状です。」「カフェイン中毒の特徴的な症状としては、興奮／不安／ふるえ／頻脈／利尿／胃腸系の障害／痙攣／不眠がある。さらには、黙っていることができず話し続けたり異常な妄想にとらわれたりといった、躁病に似た症状も見られる。」とありました。

日常生活の中で子どもたちが手に取るものにちょっと関心を持ってみる。子どもの日常に目を向けることが、子どもたちを守ることに繋がります。(内村)

### 座・閑話 シリン・ネザマフィ著「白い紙/サラム」。

最近読んだ中で特に印象に残る本だと言える。

それは、現代のイスラムの世界をイラン人の女性作家が、日本語で書いた作品であるということ。そして書店、古本屋、ネットで探したけれども買えないことができずに、2、30年ぶりに図書館に出かけて借りた本だということ。その内容を少しご紹介したい。

#### 『白い紙』

時は、イラン・イラク戦争。イラク軍が侵攻してくる頃の、高校生の淡い恋の物語。医師を目指すハサンにとって、これからの自分の未来を描けるはずの白い紙が、戦争という不条理の中、一枚の志願兵を募る白い紙に取って代わっていく。抗えない運命に消されていく希望と人生が、「私」という主語のない文体で語られていく。

#### 『サラム』

入国管理局に收容されている17歳のレイラ。その彼女の難民申請を手伝う田中弁護士とペルシャ語の通訳にアルバイトとして出向いていく「私」。タリバンに迫害されアフガニスタンから逃れてきたレイラの数々の心の傷が明かされていく。しかしそれが事実であることを証明するものがない。命からがら逃れてきた難民にそれを要求する日本政府。收容中に家族の死が判明し、絶望の中、結局強制送還が行われていく。難民受け入れの現実に直面し無力な自分に向き合うことになる田中弁護士。同時に同じアラビア語を話しながらも絶望が待ち受けているレイラに対して、豊かで平和な国に住む無力な「私」の心の葛藤が滲み出ている。(八木)

### 第4回親子座(教育講演)

“子供たちのやる気を喚起したい—”

“「今」という時代の大切さや「生きる力」を感じてもらいたい—”

—11月26日(日)に第4回目となる親子座を開催しました。今回も昨年同様にいきいき国分交流センターにて国分校・隼人校合同で、多くの保護者の方々と生徒たち並びに卒業生を含む一般の方々にお集まりいただきました。

今回は二人の講師の先生をお招きしました。まずは、れいめい高校で長年教鞭を執り、現在も非常勤講師として指導されている白尾國英先生。教師の傍ら鹿児島に伝わる「天吹(てんぷく)」の伝承と周知活動をされています。そして、第一工業大学の田中龍児先生。田中先生はドローンによる測量技術の第一人者として全国で活躍されています。

まず白尾先生からは、鹿児島に古来より伝わる独自の縦笛「天吹」について講話頂きました。長さ30センチ、3つの節と5つ孔から成る竹笛である天吹はなぜか鹿児島にしか伝わっておらず、その歴史は書物や逸話などから少なくとも室町時代には存在していたとされています。

しかし、藩政時代から明治時代にかけて学舎などで伝承されてきた天吹も『勉学の妨げになる』として、薩摩琵琶とともに禁止令が出され急速に衰退していきます。ただ一人伝承されていた薩摩琵琶の第一人者である太田良一さんから後世に受け継がれ、県の無形文化財として現在に至っています。しかし、日本における他の縦笛の中には伝承が絶えてしまったものもあり、伝承されていくことがいかに大事かどれだけ大変なものかと考えさせられました。また、講話の中で伝承されている7曲の中から2曲の実演がありました。伝承されてきたからこそ聞くことができる天吹の音色に感銘を受けました。



そして田中先生からは、「なぜ勉強するの?」と題し、学生時代のエピソードやご自身の勉強方法、当時の悩みなどをユーモア交えてお話いただきました。

「夢を持とう」というお話では、大きくても小さくてもいいから夢を持つ。そしてなりたい自分を想像する。それに向かって、夢を実現するために努力する。それこそが勉強する目的である。

「頭と体を同時に鍛える」というお話では、走ることをつづけると苦しくなる。それでも止まらず走りつづける。そうすると、すーっと苦さがなくなる(ランナーズハイ)。勉強も同じで、勉強が苦しくてもやり続ける。すると勉強をするのが苦でなくなる。部活動などで運動をしていない人も、ただ走ることでいいからランナーズハイを体験して、その感覚を勉強につなげられるように努力してみよう。

そして、「第4次産業革命(IT革命)の時代」では、日本が世界においてリーダーシップを発揮するために、国はI.O.T.(Internet of Things)の推進に力を入れている。2020年は小学校でプログラミングを習うようになる。子供たちだけでなく親の方もプログラミングを学ばなくてははいけない。子供も大人もみんな頑張らないといけないと鼓舞して頂きました。

オープニングとエンディングでは田中先生のテーマソング(356日の紙飛行機; AKB48、栄光の架橋; ゆず)の生歌披露もありました。中には口ずさんでいる生徒たちもいました。

今回の親子座を終えて、生徒たちと保護者の方々がそれぞれ感じたことを語り合い、今後の学習や生活、進路の参考にさせていただければ幸いです。

改めましてお忙しい中、この親子座に足をお運び頂きました保護者と卒業生の皆様に御礼申し上げます。



### 英語検定 漢字検定 結果報告

#### 第2回 英語検定 (11/7 実施・希望者対象)

3級	4人/4人中 (中2...2人 中3...2人)
4級	7人/11人中 (小6...1人)
5級	2人/2人中

#### 第2回 漢字検定 (11/28 実施・小4~中1・2対象)

準2級	0人/1人中	3級	4人/6人中
4級	6人/12人中	5級	0人/5人中
6級	3人/5人中	7級	3人/3人中
8級	2人/4人中		